

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202189		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム彩葉(いろは)		
所在地	長崎県佐世保市棚方町424-272		
自己評価作成日	令和3年12月5日	評価結果市町村受理日	令和4年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数で共同生活を営みながら、その人がその人らしさの尊重をされた生活をしていただけるように支援いたします。住み慣れた環境の中で、地域の方々との交流の機会を持てるよう施設の行事の開催をできる範囲でしています。趣味やレクリエーション、リハビリ体操を取り入れ残存機能を維持し、明朗快活な生活ができるような支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能・複合型サービス・グループホームを持つ法人の中で、当該ホームは開設18年目を迎えた。清潔感を感じさせる共有空間と、穏やかな職員により、ホームはあたたかな空間が準備されている。法人全体で開かれる定期的な職員研修では時季に応じた研修内容を準備され、内容によっては外部講師を招くなど専門性を深めるよう努めている。今年度は省令改定に伴うハラスメント研修を実施するなど制度の変更に対応し知見の共有やサービスの質を上げるよう取り組んでいる。法人は職員の人材育成に高い意識を持って取り組んでおり、介護福祉士実務者研修の取得に向け法人が一時的に研修費をバックアップするなど、職員として働く上で必要なスキルを磨く支援をしている。入居者の心身の機能維持や入居者自身が生活に参加しその人らしい暮らしが継続できる関わりを持つ職員の姿に、今後もますます期待の持てるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム彩葉 1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念掲示は行っており職員が周知してケアを行えています。職員同士が内容の共有をし、内容に沿ったケアを心掛けている。	ホームでは「毎日、楽しく、明るく元気よく、地域の方と共に喜びを」との理念を掲げ、言葉を分かりやすく可視化し、全職員に意識づけを図っている。分かりやすい言葉にすることで職員が同じ目線で理念を共有すると共に入居者・職員の個性を發揮できる環境づくりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年の地域との交流を兼ねた夏祭りや餅つきなどの案内掲示をしてきましたが、新型コロナウイルスの影響により自粛しています。餅つきは感染対策に留意して予定しています。	現在は感染症予防の観点から地域との関わりも困難な状況にあるが、以前は地域行事やホーム行事などで地域の方との接点も多く、今でも日常的な挨拶や回覧板の回覧で地域住民に顔が見える関係性を構築している。地域からの認知症に対する相談もあり、専門性を活かした関わりで地域と繋がるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの相談や希望に希望に応じて運営しています。行事や運営推進会議の際の意見交換。新型コロナウイルスの影響により自粛しています。12月に開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスの影響により近日までの開催を延ばして書面でのみの開催となっています。	現在、コロナ禍の為、書面による運営推進会議開催となっているが、ホームは事前資料で入居者の暮らしぶりや行事、研修内容などの状況を構成メンバーへ伝え、運営の理解に努めている。前回の外部評価後よりヒヤリハットや事故報告を行い、開かれた会議運営に繋がるよう取り組んだ。返信用紙にはコメント欄が設けられ、職員などから出された意見を会議に取り入れながら、参加者と意見交換している。	書面での会議で参加者は資料の閲覧にとどまる事が多く、双方向の会議とは言い難い様子が窺える。ホームは構成メンバーへ個別に運営状況の説明を行っているが、会議に参加しない家族からは状況がよく分からないとの意見があることを踏まえ、ホームの運営状況を分かりやすく伝える工夫をすることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所や関連機関との連携は日常的によく行っている。相談や助言をいただける関係性が構築されています。	市の担当職員とは随時相談したり、市からの問い合わせにも対応しながら、課題解決に向け協力関係を築いている。家族との相談事は、内容に応じた専門部署より助言や仲介役を依頼し、安心センターで金銭管理を利用する入居者もあるなど個別に連絡を取り合いながら課題解決に向け取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の該当内容の把握と周知、年に2回以上の研修を実施している。職員は研修内容を現場へと活かし留意しながらケアを行っています。	ホームでは「身体拘束をしない」方針で支援を行い、定期的な身体拘束適正化委員会の開催や、毎月身体拘束に該当する具体的な行為について確認する体制を整備している。今年度は代表的な身体拘束の行為や自分たちの支援の状況について振り返り、問題形式で自身の認識について確認を行なった。令和6年度に向け、法人全体で委員会を整備し、更に取り組みを深める準備が進んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通じての理解と学びにおいて現場へと活かしケアを行っています。虐待はつねに身近で起こりうることに認識して取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社協や安心センター等の機関との連携により入居者様との安心に満ちた生活の実現ができるように努めている。成年後見人制度の研修などを増やし、さらなる把握に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と随時、十分な説明と理解を得ただけのように努めている。その都度説明ができる体制ができている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や連絡などでご要望や気になられていること等をつねに相談できる体制ができている。	現在は各担当職員が本人の写真と共に定期的の手紙や電話などを通して普段の暮らしぶりなどを伝え、家族の意見や要望の集約に努めている。現在は感染症予防の観点から家族がホーム内に立ち入る事も困難な状況にあるが、家族と過ごす時間が途切れないよう一定の距離を保った面会や窓越しで会話を楽しみ、家族の安心につながるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議や日々の申し送りで意見や相談などを共有し意見が可能な限り反映されています。	ホームでは法人全体で月1回の職員研修を行い、内容に応じて外部講師を招くなど専門性の理解を深める機会を設けている。今年度は消防署を招いたAED訓練等知見の共有を図り、省令改正に伴い、介護職員の処遇改善・職場環境の改善にむけハラスメント研修を行った。人事評価制度の導入もあり、職場全体でサービスの質の向上に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度があり、自己評価・管理者からの評価で自己の長所と短所の発見と理解をし能力向上へとつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催の社内研修、グループホーム協議会等で社内外の研修に参加し、事業所での取り組みに反映していけるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会での交流を通じて同職種同士の交流と意見交換・情報共有を行っています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居の際には孤独感やご不便等がないように職員は積極的に他者との関係構築の環境作りや傾聴と対話を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各担当職員からのお手紙や写真の送付、面会時やお電話で随時職員との接触があり希望される事や気になられることには随時お話と対応をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、御家族のニーズに沿って職員間での情報の聞き取りと意見交換と共有を行いケアプランへと反映している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる限り、ご本人様の残存されている能力や機能を活かし、お手伝いや自主的な生活動作を尊重しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響により面会の制限等がありましたが、状況を見ながらの強化と緩和を繰り返しながら関りを絶つ事が無いように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望の場所や慣れ親しまれた土地になどご家族の協力を得て継続して利用が出来るように努めています。	現在は家族や友人の訪問も困難な状況にあるが、職員はレクリエーション中の声かけから季節感・その頃出かけていた場所など話を広げ、その方が大事にしてきた人や場所の把握に努めている。受診帰りに行きつけの饅頭屋へ立ち寄り、編み物の趣味を通して入居者間の新たな繋がりを広げる等、その方の大事な思いが途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有フロアでの取り組みの工夫、共同作業での季節よりの壁画や飾り作り、レクリエーション等に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じた相談や対応をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に関わりを持ち、相談事やご要望の傾聴と希望の反映に努めています。	職員は入居者と日常の会話の中からその方の暮らしぶりを把握し、入浴や趣味活動、お茶の時間などそれぞれで過ごし方を決めることができるよう支援に努めている。その日の出来事は個人記録に残し、その方の理解にも繋げている。「何かさせて！」と言い、自ら掃除や寝具交換を手伝う入居者もあり、入居者自ら生活に参加できるよう声かけや関わりを持っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様への聞き取りやご家族へとこちらより働きかけて情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて本人様の除隊の把握と生活の状況・体調面や精神状態にできる事を確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスでの意見交換を行い、本人様のご意向と状態に沿ったケアに合ったプランを作成しています。	個人記録には介護計画に挙げた具体的内容を記録できる様式であり、日課表の中でどのタイミングで何を行うか確実に援助ができるよう職員に意識づけを図っている。個人記録には具体的な数字、状況、場面、本人が発した言葉などを細かく記載しており、記録を元に定期的なモニタリングで達成状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	公的機関や法人内主治医との連携をしご本人様のニーズに沿って個別の記録や業務日誌等に記載を心掛け、情報の共有と対応を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応を常に心がけ、プランにない事態にも努めた対応をしています。またその分を今後のプランへと繁栄できるように職員間での共有に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、必要があれば活用できる資源がないか調べている。民生委員、訪問理美容との関り。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設の協力医療機関がありはするが、御家族とご本人様の意向を優先しています。	入居後、ホームの協力医にかかりつけ医を変更する方も多いが、ホームは本人や家族と相談しながらその方が望む医療機関へ継続受診できるよう努めている。健康チェック表を用いて介護の視点・看護師の視点、受診時の主治医助言・内服の変更等、それぞれの立場から情報を提供し共通理解できる体制を整えている。ホームは薬剤師より薬の相談も気軽にできる環境にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な施設勤務の看護師による健康チェックを行い、健康状態の確認と変動があれば速やかに主治医へと連携をとった対応ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要となる情報の交換と入院中の状態の把握を医療機関へと確認し退院後の受け入れがスムーズにできるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時やご本人様の状態の変化等は常に報告と連絡と相談を行いご本人様とご家族の意向の確認をし事前に対応している。看取りの指針に基づいて他職種や医療機関等と連携をしている。	ホームでは看取りの指針を準備し、体調変化ごとに本人や家族の意向、主治医の意見を確認しながら看取りへの対応を行っている。一昨年に看取りの経験があり、本人のつらさや食事形態に配慮した支援に取り組んだ。職員にはその都度アンケートを実施し不安な気持ちを共有している。管理者は支援の方向性を確認しながら、今後も家族の気持ちに寄り添い対応していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルや社内研修での対応が速やかにできるように日々の状況に沿って職員間での共有と連携を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に防災訓練を行い、また備蓄食料や道具等の点検と避難経路や避難先の地域の方からの協力の確認を行い、災害に備えている。	ホームでは定期的な訓練を通じて火災や災害発生時における対応方法を確認し、火災発生個所に応じた避難方法を検討しながら柔軟に対応できるよう取り組んでいる。ホームは2階建であるが、訓練時にはシューターや階段から入居者を降ろす訓練も実施され、火災発生時には地域からの協力を得る理解も得ながら有事に備えている。	現在は訓練ごとに非常時の役割分担を定め、手順に沿った訓練の実施がなされているが、職員全員が避難を体で覚えると共に、有事の際に柔軟に対応できる自分の役割を明確に意識できる仕組み作りへの課題が窺える。今後、起こり得る様々な状況に初動対応を速やかに開始できる更なる体制づくりに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや浴室の目隠しや個室の空間作りに努めています。おむつ交換時のドアの開け閉め、トイレ誘導、トイレ誘導の際には使用中の札を作成し、鉢合わせが極力ないように努めています。	職員は「自分がそうされたらどうなのか」と日頃の関わりを振り返り、その方が入居に至った経緯や背景を理解に努めプライバシーに注意した言葉かけを行っている。管理者は入居者が感じる対人関係の悩みにも対応し、職員研修内でも事例や書類を元に、職員の日常の関わりの中で尊厳を傷つける行為がないか確認し入居者の誇りやプライバシーを守るよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様のニーズや嗜好にあたった内容で行事等の計画を立てている。入居者様お一人お一人にわかりやすい言葉かけや話し方を工夫する事を意識して取り組んでいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様お一人お一人のペースを尊重できるように工夫してケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容のご利用やご家族の協力によりご本人様のお気に召される支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみな方が多く、嗜好品や常にリクエストがあればすぐに反映して提供を行っています。	12月より食事は業務委託しホームでの調理の場面が無くなったが、ホームでは「食事は入居者の一番の楽しみであること」を意識し、入居者が適温でおいしく食事摂取できるよう食事形態にも配慮した献立を提供している。からしやソースなどの調味料の準備もあり、一律の味付けではなく、それぞれの拘りや生活習慣に合わせた食べ方ができるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量の把握に努め、状態の沿った食事形態を常にきがけ工夫をして提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人の状態による口腔ケアの誘導と介助を行い、必要時には歯科との連携をとって、口腔内のケアに努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りはトイレでの排泄をしていただけるように様子を見ながらの誘導とトイレの設置をしています。	ホームではその方の心身の状態に合わせた排泄方法を支援し、トイレの設備や衛生用品の設置場所などを配慮し、排泄の自立に向けて取り組んでいる。怪我や病気で一時的に車椅子の使用やオムツ使用になったとしても、ホームでの生活スタイルを思い出す関わりを持ち、意欲を引き出し、排泄動作の回復に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態の観察とできる限り薬に頼らない自然排便を促す食事や飲料と適度な運動の提供を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	提供曜日や時間とうはおおよそ決まっているが、サービス提供時にご本人様の意向に沿って提供を行っています。	ホームでは入浴日の設定はあるものの入居者同士で入浴の順番を話し合い、湯温や入浴のタイミングなど個々に沿った対応に配慮しながら入浴している。職員はそれぞれの入居者の心身機能に応じた介助を行い、自立の阻害とならない関わりを持つよう意識している。入浴を拒む入居者には入浴したくない理由を探り、入浴環境を整えながらスムーズに入浴できる環境を整え支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は設定なく、お一人お一人が安心して眠られるような環境作りをしている。お一人お一人が自身の決められたお時間に就寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理を行、主治医と薬剤師との指導と情報共有を密に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の好まれる事や得意とされることをリサーチしたり、状況を見ながら共同して役割分担にて取り組んで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、頻度が激減している状況ではあるが、御家族の協力もあって車窓ドライブ等は行っている。	現在は感染症予防の観点から積極的な外出を控える状況にあるが、職員は外気に触れて季節を感じてもらえるよう、敷地内で家庭菜園や土に触れ気分転換を図る取り組みがある。ホームとしても外出の機会を確保したい意向もあるが、現在は下肢運動を中心としたレクリエーションを企画し、季節の花を植栽や栽培した野菜の手入れなどできる範囲で外気浴を行い対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は定期的に預り金やお小遣いで近隣の自販機でジュースを購入されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の利用時の通話の介助やご家族からの電話には常に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはお使いに慣れられている品物を持参していただいています。ごちゃごちゃとものが多すぎないように共有スペースなどは状況に応じて模様替えを行っています。	居室はリビングを中心にL字型に配置され、入居者が思いおもいの過ごし方でくつろげる空間を整備している。温度や空調等清潔感を感じさせる共用部分は自由に車椅子操作ができるようゆとりを持った家具の配置となっており、木々に面した大きな窓からは季節の移ろいを感じ、ゆっくりと落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置や、テーブル席の配置は状況を見ながら工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にはお使いに慣れられている品物を持参していただいています。飾り作りや色塗りなどでお気に召されたものを飾っています。	ホームでは家族に対して自宅で使い慣れた馴染みの家具を持ち込んでいただくよう説明し、入居後の新しい環境に不安なく馴染んでいけるよう努めている。仏壇を持ち込む入居者もあり、朝には手を合わせて礼拝する生活習慣に対応したり心身の状態に応じて家具の配置を検討するなど、その人らしい暮らしの実現に向け取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはプライバシーに配慮をしたネームプレートを作成を行い、トイレや浴室利用の際には使用中のプレートを設置しています。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム彩葉 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【毎日、楽しく、明るく、元気よく、地域の方と共に喜びを】、実施できるようにを職員が理解し共有しております。研修を行い、理念、共有の確認を実施しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ為に、地域参加の行事を控えております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員が認知症について、理解と知識を深め対応をしている。今年度は、地域の方とふれあう機会が少なかったですが、回覧板をお渡しする際になどに地域の方とお話する機会がありました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度(令和2年度4月より)は新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ為に、運営推進会議は書面にて行い、状況の報告を行っております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への定期的な報告、連絡、相談を行い、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の入れ替わりがあり、研修を行い、身体拘束について知識を深めており、身体拘束を行わないサービスに心掛けております。玄関の施錠は、夜間以外は行わず、希望時に出来るように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、各職員、知識を深め、言動に注意をし、職員間で注意を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会がある際に、参加をし、内容について把握をするように努めている。現在、成年後見人制度を利用されている方がおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各職員は、契約内容を把握をし、利用者様や家族様へ説明を行えるように努める。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様来所時や、電話連絡にて、報告や意見を訪ねている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、管理者会議にて意見を出せる機会がある。また、日頃から意見や提案を聞いておりますが、意見の繁榮には時間がかかる時がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得の支援、手当の見直しなどを行い、各職員が向上心を持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルス感染感染者拡大がみられ、研修会への申し込みに制限があり。参加が困難であるが、社内研修にリモートにて月1回参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は中止になることが多く、グループホーム協議会や病院主催の研修に参加される機会がすくなかった。グループホーム協議会では、来年の2月以降に研修を開催予定。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員間での申し送り、情報収集(アセスメント、生活歴、確認)をし、傾聴を行い、安心していただけるように努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前に家族様不安や要望をお聞きし、どのように支援を行うか説明する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様のその時の必要かつ、可能な対応を行えるように、事前面談や情報収集を行いサービスを行うよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様1人1人の空間を大切にしています。自宅で過ごすようにして頂きたいので、過剰な介護は行わないようにしていきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様へ、面会時や、お便り(施設請求書送付の際)に利用者様の施設内での状況を手紙に記入され、ご家族様と情報を共有できるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大を防ぐ為に、外出、外泊を行うことができない事が多かったです。家族様が、面会に来られた際も、ガラス越しでの対話しております。関係が途絶えないように支援を努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者様の同士のコミュニケーションが取られるように支援しております。コミュニケーションが困難で孤立される方がいらっしゃいますが、利用者様同士で関係がもてるように職員が努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談がありましたら、無下にせず、必要な対応を行う。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしいあり方を尊重し、言葉かけに敬意を払い、傾聴を行い利用者様へ寄り添っております。困難な場合、家族様の協力を得ている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、家族様、担当ケアマネジャー、医療機関より、情報収集を行い、生活歴の内容の把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の残存機能をくみ取り、各利用者様にあつた支援を提供する。記録と申し送りを行い、職員間での共有に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間や、職員会議での意見交換を行い、ケアマネに報告をし、モニタリングを行い、利用者様にあつた支援が行えるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表、排泄表、食事摂取量表などの記録を職員間で把握され情報の共有を行い出ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプランに沿って支援を行いながら、利用者様の身体の状態に合わせ、それぞれの利用者様に応じた主治医、専門医へ受診介助を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症拡大の為、地域の方や、民生委員、包括支援センターとの交流が設けられませんでした。交流を切らさないように、挨拶などを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在施設の主治医が訪問診療に来てくださっています。なじみのかかりつけ病院希望される利用者様は家族様にご対応をしていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が週一回ペースで健康チェックを実施し、状態の把握に努めている。主治医と連携をし報告を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に医療機関に情報提供を行う。お見舞いには、コロナ禍の為に行えず。状態の確認は家族様や、ソーシャルワーカーと協力を確認、相談、報告を行う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様の意向の確認を行い、利用者様が重度化された際には、再度意向の確認を行う。家族様の意向の確認後、協力医療機関との連携に心掛けています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内や外部の研修又は消防職員より直接指導を頂き実践を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防、避難訓練を年に2回(うち1回は消防隊員同行)実施。消防設備の点検、避難経路の確認をし、早急な対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄は周りから見えないように職員が気掛けるように対応をする。言葉かけも人格や尊厳を傷つけないように慎重にかつ、臨機応変に対応をする。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が困難な利用者様もおられますので、しぐさや表情をみて希望に添えるように努める。自己決定を促すように支援をする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々のペースを大切にし、希望に沿った支援で過ごせるように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様のなじみの美容室へお連れしたり、施設へ2～3ヶ月に一度訪問カットに来ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に嗜好品を好み方や、食材を噛み切れないので、ミキサー食を提供を状態を確認しながら行ってます。調理の手伝いや、テーブル拭き等声を掛け行われる。誕生日や季節の行事に合わせた食事を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせて食事形態や摂取量を調整する。毎月(1日1回指示の方もおり)体重測定を行い、状態の把握に努める。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯洗浄、消毒等、必要な支援を行う。必要に応じて歯科訪問診療を利用し、治療を行い、口腔ケア指導をされています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を確認し、誘導を行う。利用者様のトイレ誘導は定期的に行う。間隔が長い際には声掛けを行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る限り自然に排便が出るようにする。既往歴を確認し接種可能か判断を行い、水分補給や、牛乳、ヨーグルト、野菜等を気掛けて摂取していただく。それでもでない場合は、下剤を使用する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は月曜日・水曜日・金曜日・日曜日と入浴日が決まっています。必要に応じ、利用者様の希望される際に臨機応変に入浴の対応を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はそれぞれ好きな時間に休まれています。日中は入居者様の身体機能に合わせて休息の時間が取られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている、処方箋を1つのファイルに綴っているが、月が古いのは個々のファイルに綴っている。処方箋について確認出来るようにしております。服薬の際にダブルチェックで対応をし、服薬時はマニュアルに沿って実施しております。服薬後は、服薬確認表に対応された職員の印鑑を押しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機掛けや、洗濯物たたみ等役割を持っていただき、張り合いを感じていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員同行し庭の畑の手入れ、草むしり、野菜の水やりを行う。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預かり金は施設で管理をしております。本人で管理されている利用者もおりますが、外出の際、買い物もされることもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し電話をされます。本人様にかかってきた電話は取り次いでおります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に季節の飾りをし、季節を感じていただけるようにしている。湿度温度軽を設置し、エアコン、加湿器で室温、湿度を調整できるようにしています。ゴミ箱の臭いのもとは、ゴミステーションに早急に捨てるように対応をする。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルを分けて設置し、その時の気分で好きな場所で過ごせるようになっている。テレビや新聞をみられすごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、入所時に家族がお気に入りの物を居室に持ち込むことができ、テレビ(家電)、写真などを持ち込まれます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の表札、廊下に貼ってある案内(トイレ、浴室)、浴室、トイレの表札を貼っており、認知症の方でも自室がわかるように、表札を貼っています。		